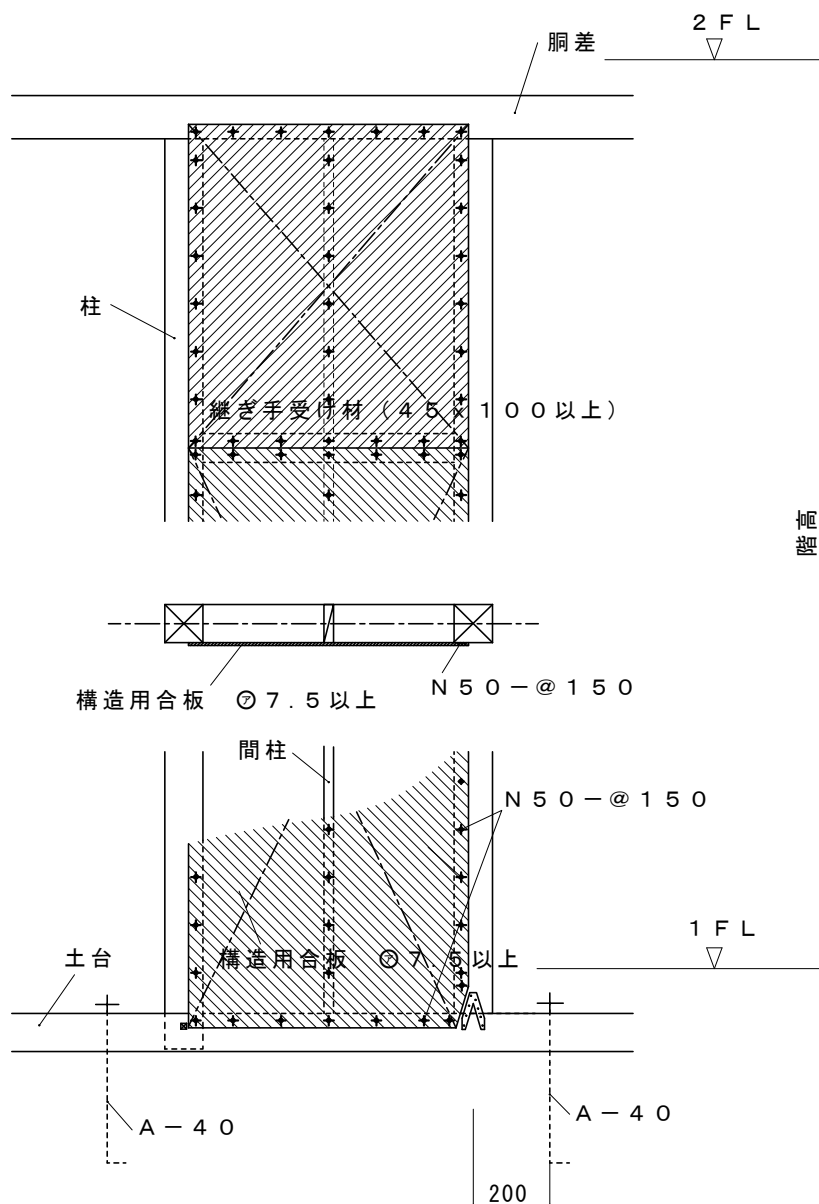


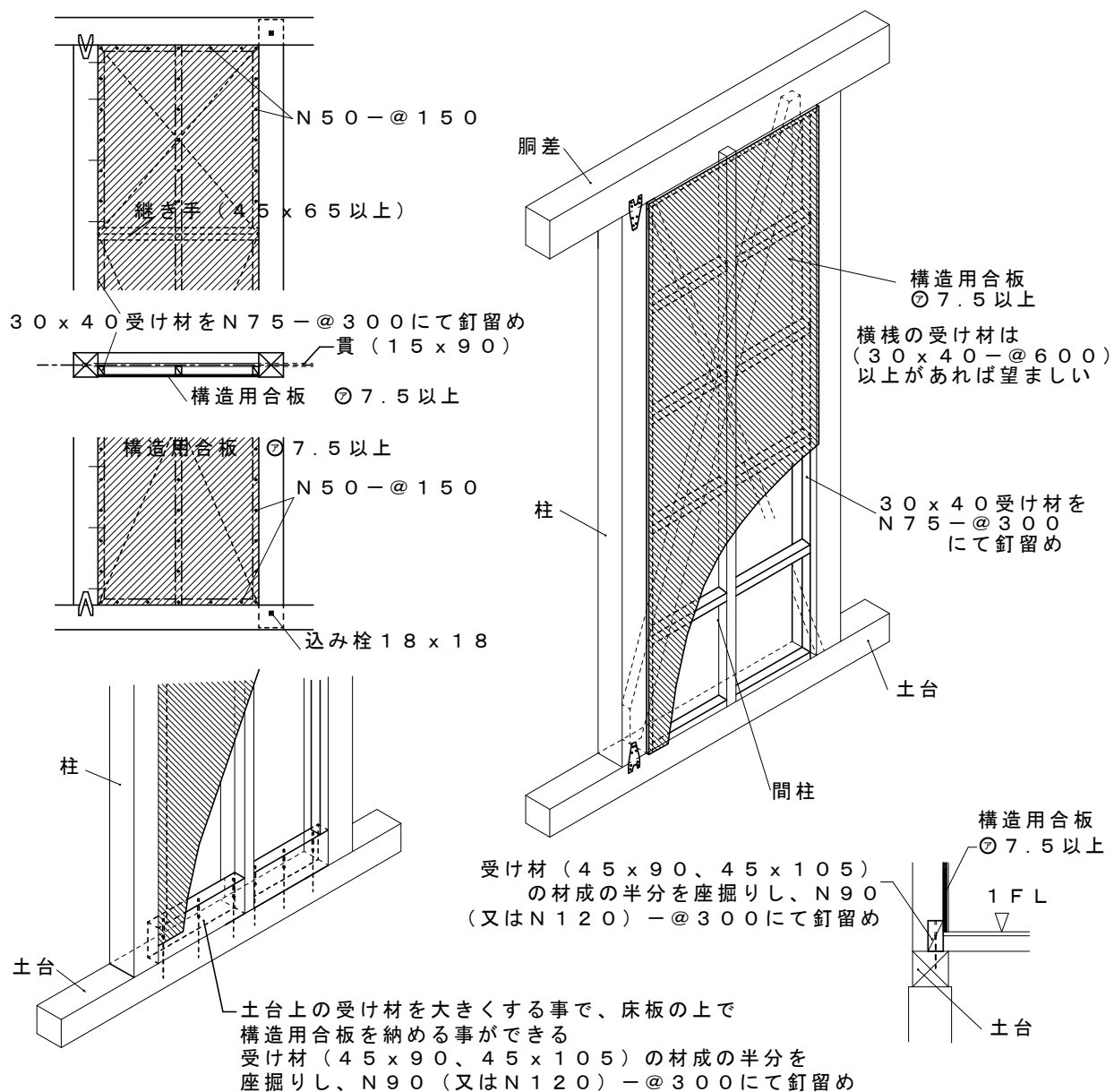
「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強計画」壁基準耐力 5.2 kN/m



※留意事項は下記による

- 1) 構造用合板特類 2 級以上 $t = 9$ 3 x 6 版 N50-@150 打
- 2) 構造用合板は、継ぎ手なしの 1 枚ものが望ましいが、階高に対応する長い構造用合板は流通していないので、継ぎ手を 1ヶ所認める
- 3) 柱頭・柱脚には平成 12 年告示第 1460 号に対応した接合金物を設置する事
- 4) 筋かいを併用するときは、筋かい端部にはボックスタイプの金物を採用する

「２０１２年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強計画」壁基準耐力５．２ｋＮ／ｍ



※留意事項は下記による

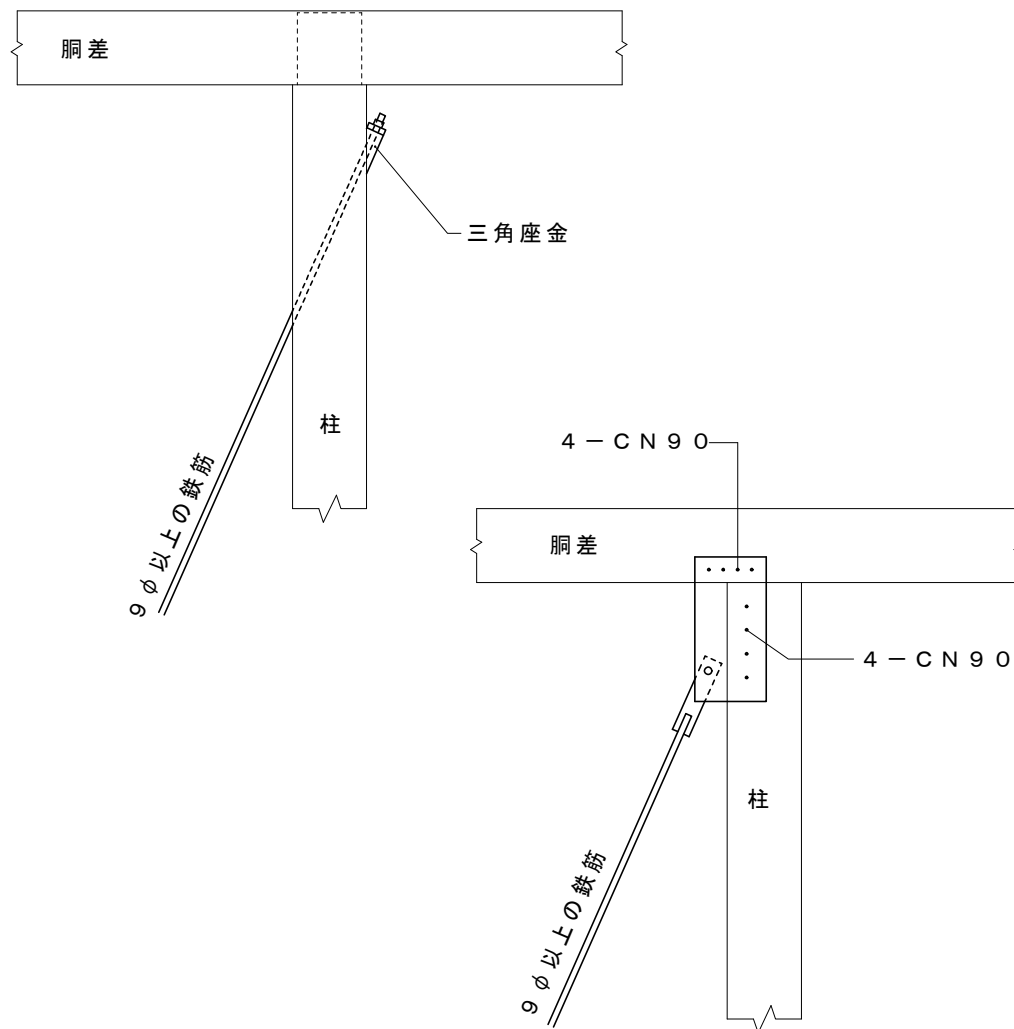
- １） 構造用合板特類２級以上 $t = 9$ ３×６版 N 50 - @ 150 打
- ２） 構造用合板は、継ぎ手なしの１枚ものが望ましいが、階高に対応する長い構造用合板は流通していないので、継ぎ手を１ヶ所認める
- ３） 柱頭・柱脚には平成１２年告示第１４６０号に対応した接合金物を設置する事
- ４） 筋かいを併用するときは、筋かい端部にはボックスタイプの金物を採用する

補強詳細図－３

筋かいによる補強（９φ以上の鉄筋 壁倍率１．０）

「２０１２年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強計画」壁基準耐力１．６ｋＮ／ｍ

※たすき掛けの場合は、（壁倍率２．０）壁基準耐力３．２ｋＮ／ｍ



※留意事項は下記による

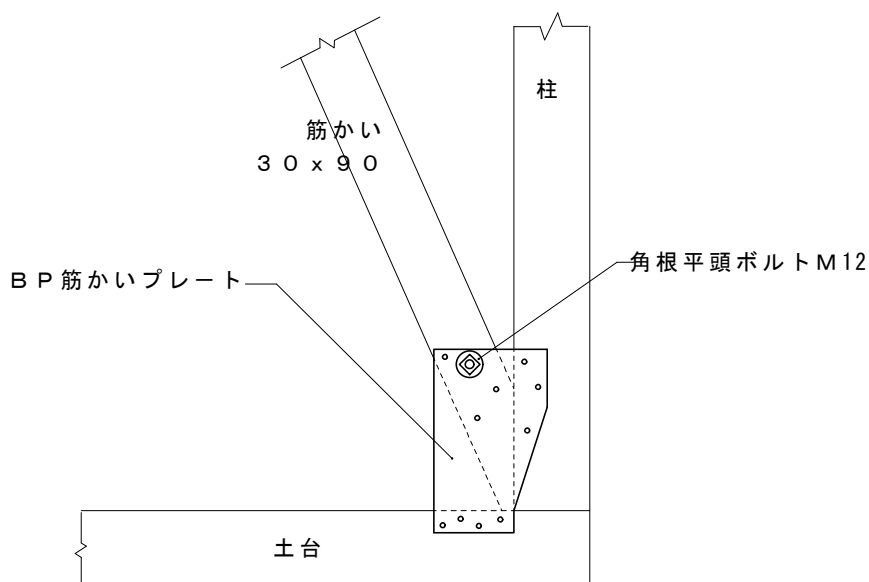
- １） 筋かい尻部の納まりはこの図の１８０度回転
- ２） 柱頭・柱脚には平成１２年告示第１４６０号に対応した接合金物を設置する事
- ３） 筋かい上端部の柱脚２００ｍｍ以内には、アンカボルトが望ましい。近くにアンカボルトが

ないときは、柱・土台・基礎などＦＢ＋ケミカルアンカーなどの金物にて補強

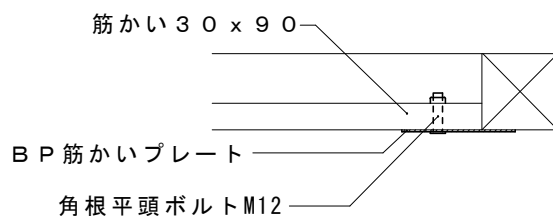
- ４） 上段の図－三角座金 下段の図－鋼板がセットＰＬ－２．３、梁／洞差４－ＣＮ９０、柱４－ＣＮ９０

「２０１２年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強計画」壁基準耐力２．４ｋＮ／ｍ

※たすき掛けの場合は、（壁倍率３．０）壁基準耐力４．８ｋＮ／ｍ



３０×９０筋かい端部納まり（ＢＰプレート）図（側面図）



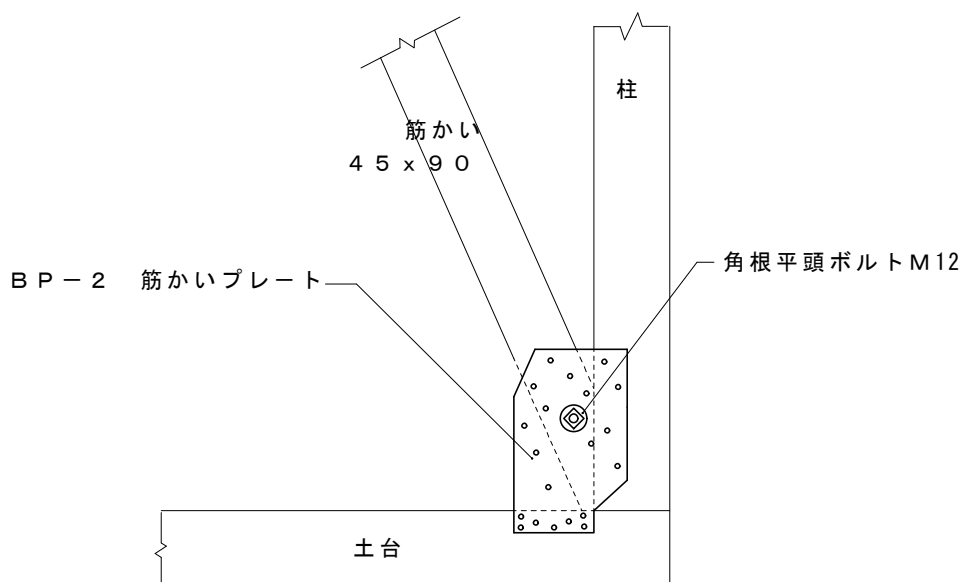
３０×９０筋かい端部納まり（ＢＰプレート）図（平面図）

※留意事項は下記による

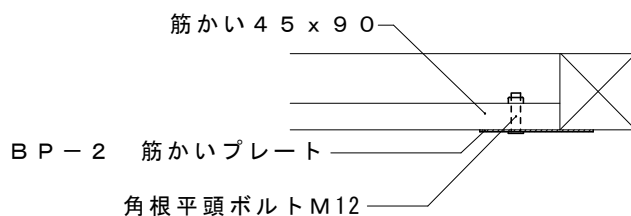
- １） 筋かい尻部の納まりはこの図の１８０度回転
- ２） 柱頭・柱脚には平成１２年告示第１４６０号に対応した接合金物を設置する事
- ３） 筋かい上端部の柱脚２００ｍｍ以内には、アンカーボルトが望ましい。近くにアンカーボルトがないときは、柱・土台・基礎などＦＢ＋ケミカルアンカーなどの金物にて補強
- ４） 角根平頭ボルトＭ１２、小型角座金Ｗ２．３×３０、六角ナットＭ１２、太め釘ＺＮ６５

「２０１２年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強計画」壁基準耐力３．２ｋＮ／ｍ

※たすき掛けの場合は、（壁倍率４．０）壁基準耐力６．４ｋＮ／ｍ



４５×９０筋かい端部納まり（ＢＰ－２プレート）図（側面図）



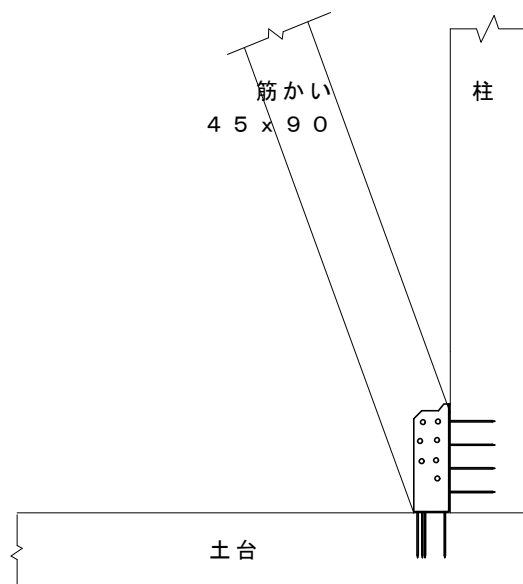
４５×９０筋かい端部納まり（ＢＰ－２プレート）図（平面図）

※留意事項は下記による

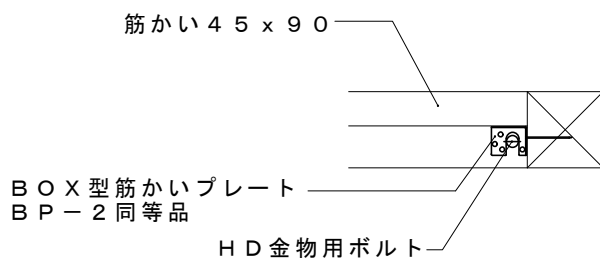
- １） 筋かい尻部の納まりはこの図の１８０度回転
- ２） 柱頭・柱脚には平成１２年告示第１４６０号に対応した接合金物を設置する事
- ３） 筋かい上端部の柱脚２００ｍｍ以内には、アンカーボルトが望ましい。近くにアンカーボルトがないときは、柱・土台・基礎などＦＢ＋ケミカルアンカーなどの金物にて補強
- ４） 角根平頭ボルトＭ１２、小型角座金Ｗ２．３×３０、六角ナットＭ１２、太め釘ＺＮ６５

「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強計画」壁基準耐力3.2kN/m

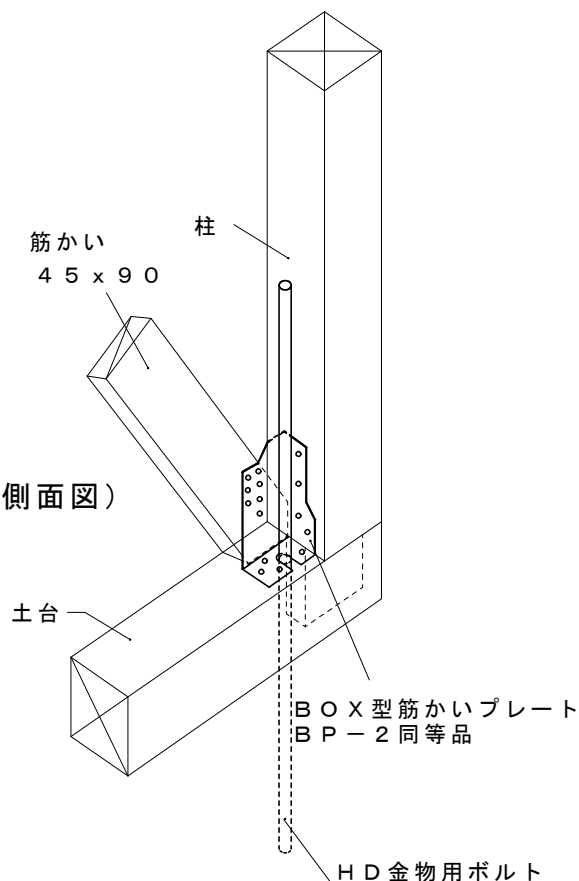
※たすき掛けの場合は、（壁倍率4.0）壁基準耐力6.4kN/m



BOX型45×90筋かい端部納まり図（側面図）



BOX型45×90筋かい端部納まり図（平面図）

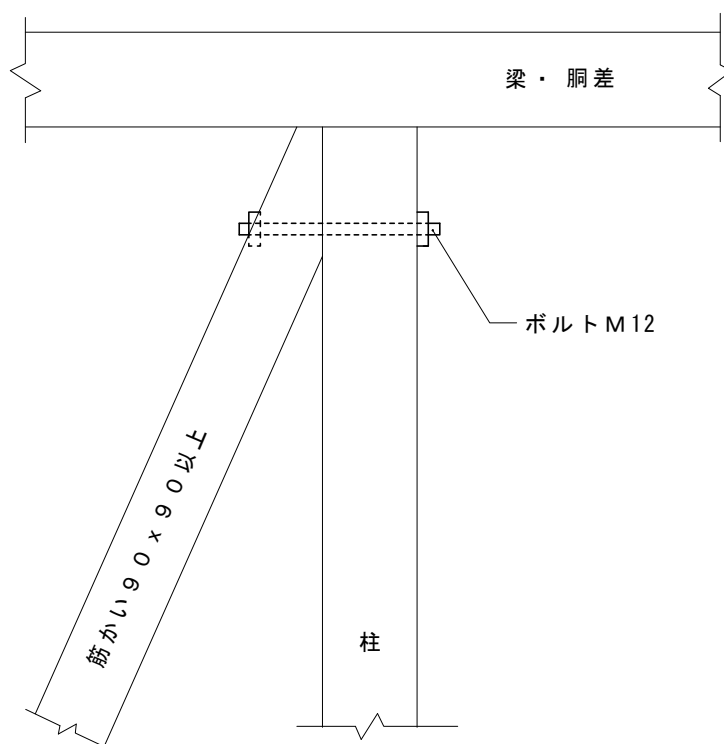


※留意事項は下記による

- 1) 筋かい尻部の納まりはこの図の180度回転
- 2) 柱頭・柱脚には平成12年告示第1460号に対応した接合金物を設置する事
- 3) 筋かい上端部の柱脚200mm以内には、アンカーボルトが望ましい。近くにアンカーボルトがないときは、柱・土台・基礎などFB+ケミカルアンカーなどの金物にて補強
- 4) 面材耐力壁・内壁耐力壁の筋かい端部に用いる

「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強計画」壁基準耐力4.8kN/m

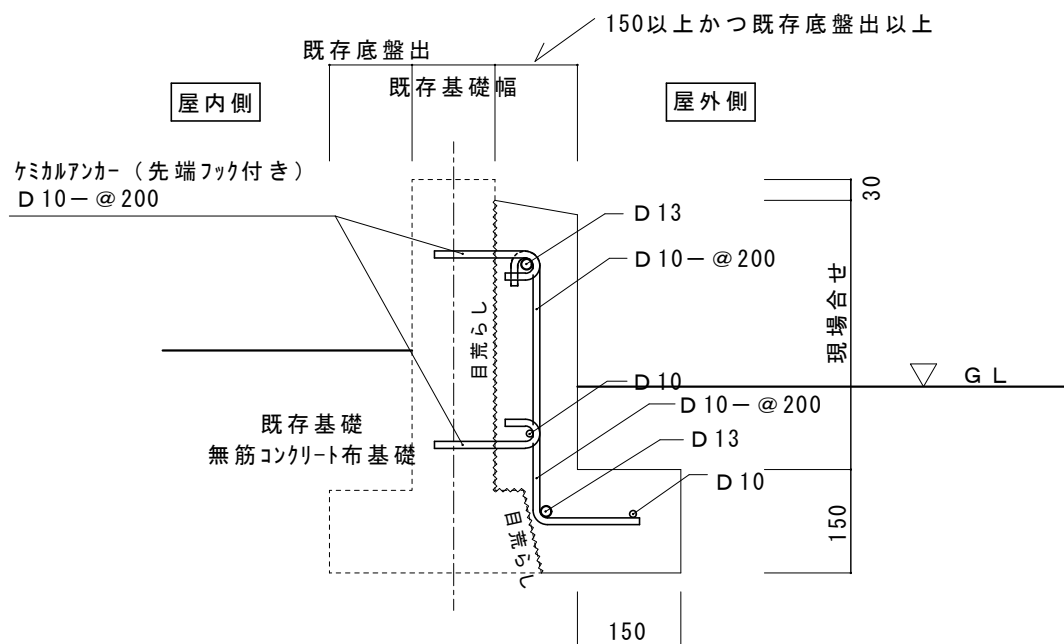
※たすき掛けの場合は、（壁倍率5.0）壁基準耐力9.6kN/m



※留意事項は下記による

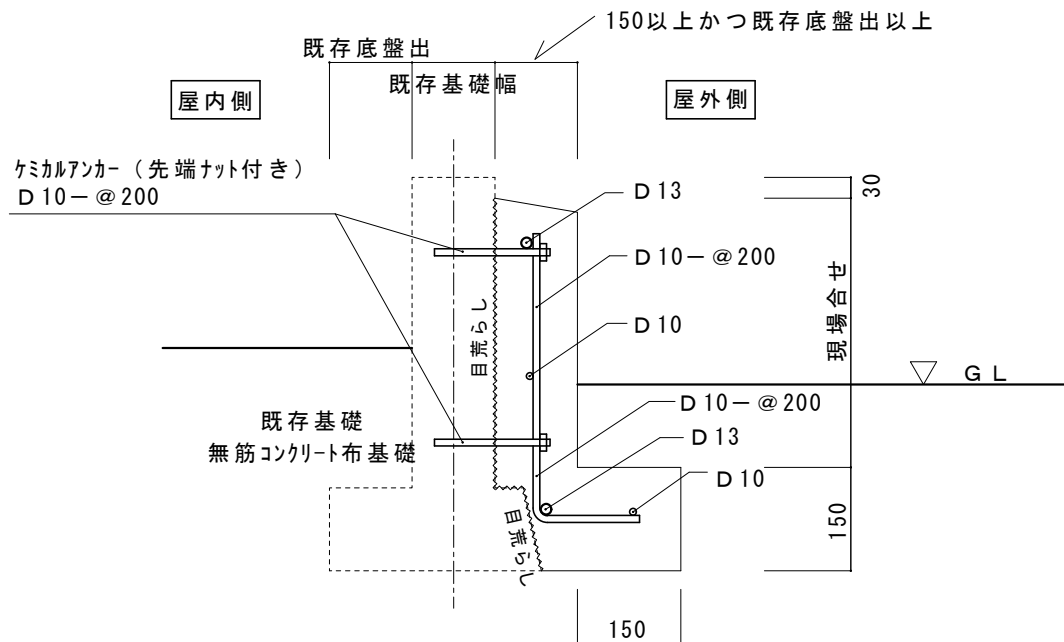
- 1) 筋かい尻部の納まりはこの図の180度回転
- 2) 柱頭・柱脚には平成12年告示第1460号に対応した接合金物を設置する事
- 3) 筋かい上端部の柱脚200mm以内には、アンカボルトが望ましい。近くにアンカボルトがないときは、柱・土台・基礎などFB+ケミカルアンカーなどの金物にて補強
- 4) 柱に傾胴付もしくは傾大入M12ボルト締め、座金4.5×40×40

※「先端フック付きアンカー筋の場合」



外周布基礎補強図

※「先端ナット付きアンカー筋の場合」



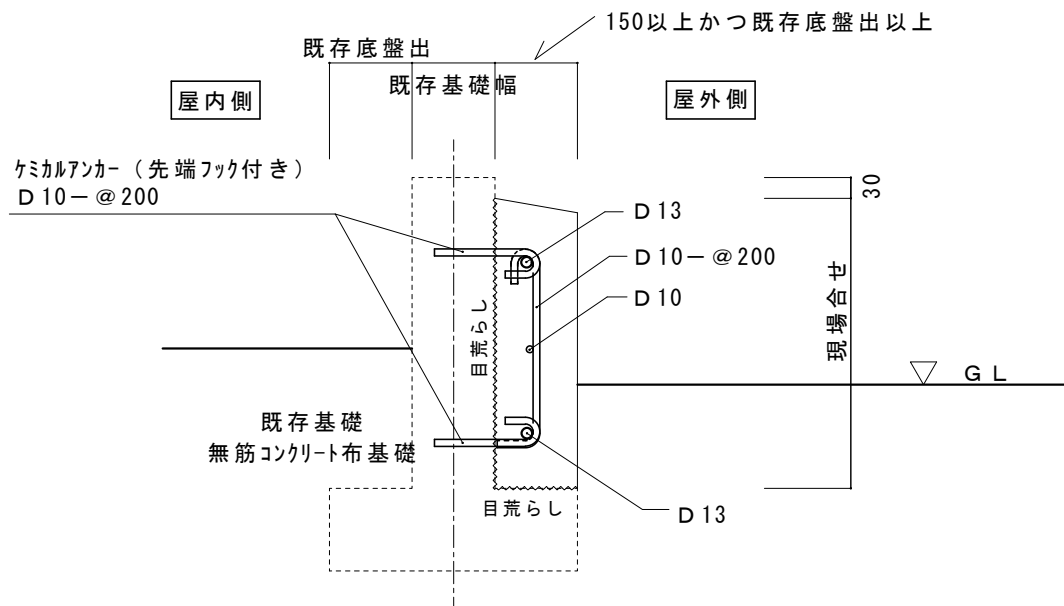
外周布基礎補強図

※留意事項は下記による

- 1) 既設の基礎との接続面を目荒らしし、フーチングを除去し、鉄筋コンクリートの基礎を併設

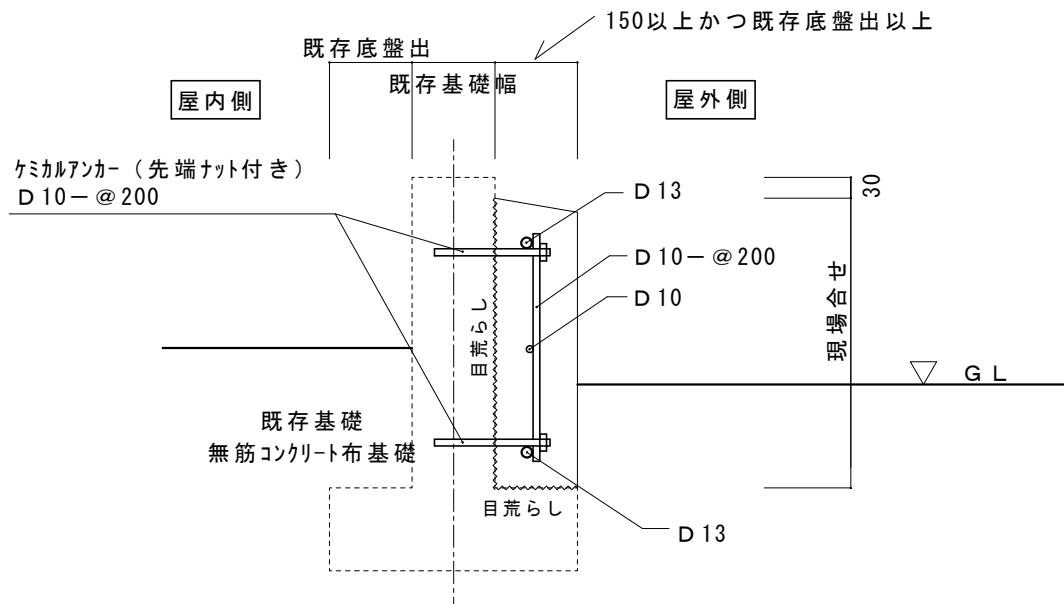
するので、既設の基礎を傷めないよう充分注意が必要である。

※「先端フック付きアンカー筋の場合」



外周布基礎補強図

※「先端ナット付きアンカー筋の場合」

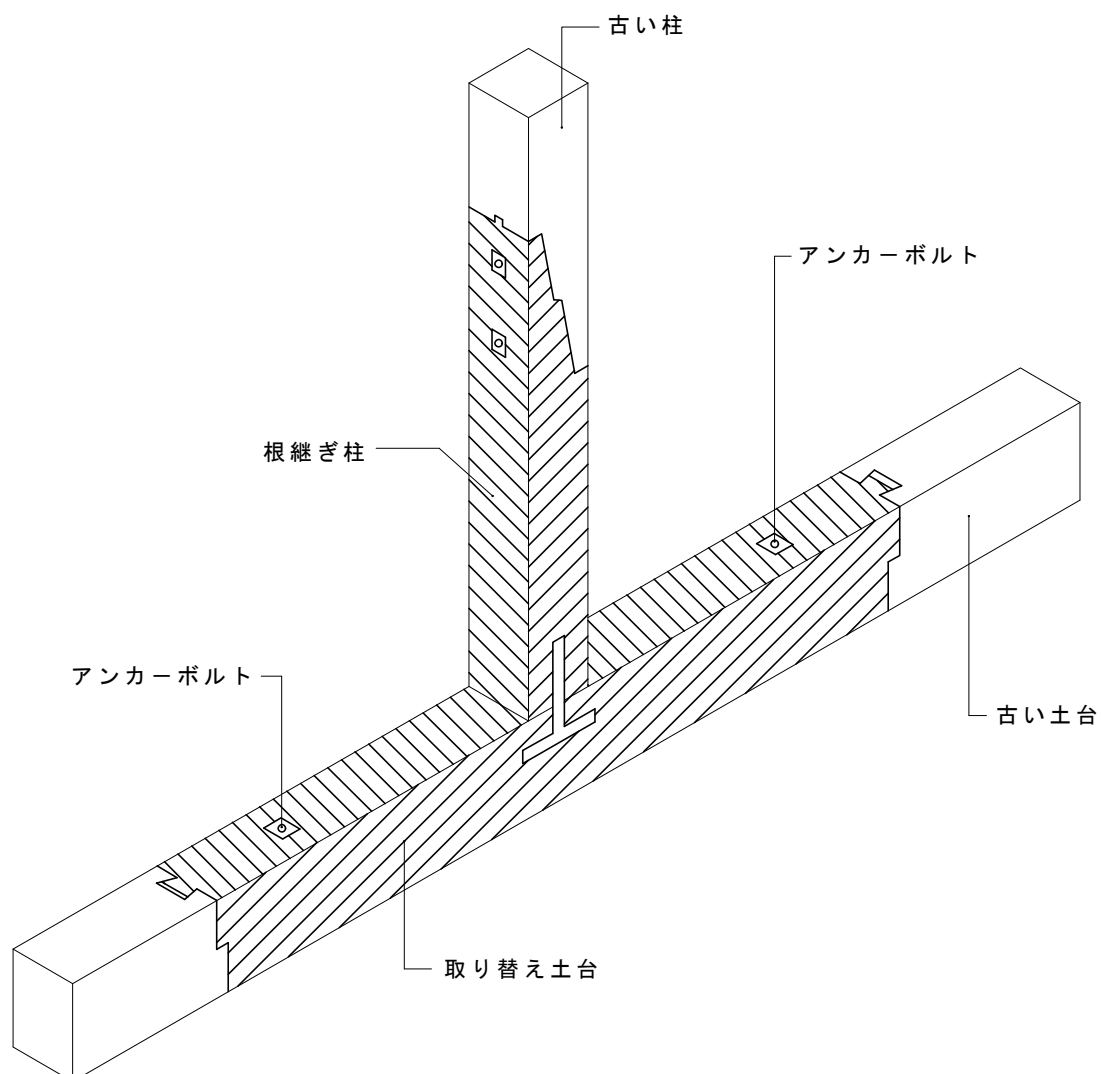


外周布基礎補強図

※留意事項は下記による

- 1) 既設の基礎との接続面を目荒らしし、鉄筋コンクリートの基礎を併設するので、既設の基礎を

傷めないよう充分注意が必要である。



※留意事項は下記による

- １） 柱の根継は台持継、２－Ｍ１２絞めとする
- ２） 土台の継手は腰掛蟻継とし、取り替え土台側は、両端（男木）とする
- ３） 取り替える土台は、両端を現況アンカーボルトでとめられる長さとする
- ４） 近くに現況のアンカーボルトがない時は、あと施工アンカー（接着系）Ｍ１２を両端に新設
- ５） 根継いだ柱脚には原則として、平成１２年告示第１４６０号に対応した接合金物を設置する事
- ５） 根継いだ柱脚には引抜計算によらない場合にはＶＰ，ＣＰＬ，ＣＰＴ金物を取り付ける
- ６） 取り替える柱脚・土台には、取り付け前に防腐防蟻処理を行う